

青森から続く野党の善戦と共闘に安倍政権 「東北地方選全敗」か

櫻井 智志

岩手県知事選勝利を経て、盛岡市長選、山形市長選など東北の重要な県都をはじめ次々と続く。私は、このルーツに福島県知事選の熊坂義裕氏の健闘と青森県知事選の大竹進氏の史上最大の得票率があったことを重視したい。群馬県知事選のはぎわら貞夫候補、埼玉県知事選の柴田やすひこ候補と日本共産党単独の推薦候補としてはかなり前進している。そこにもってきて、沖縄のオール沖縄の衝撃は強い。首都圏官邸前がいつも注目されているが、沖縄県民の闘争や青森県民の闘争など全国を牽引しているのは、今までの左翼政党や左翼知識人のカテゴリーを大きく拡張したところまでたどり着いている。

ここまで日本の国民的規模の運動を盛り上げてきたのは、新たな段階に達した国民の運動である。学生団体『SEALDs』、福島原発以降反原発運動をリードしてきた反原発国民連合、首都圏連合などあきらかに21世紀に入っでの抵抗運動がいままでの政党を逆にリードしている。

国民が福島原発以後に味わわされた苦難を思えば、国民無視の安倍自公政権の暴走政治に対して国民が反発するのはあまりにも当然だ。この東北地方選のさきがけは、青森県知事選での大竹進候補と氏を支える陣営の大健闘である。

青森の大竹進候補、群馬のはぎわら貞夫候補、埼玉の柴田やすひこ候補、岩手の達増拓也候補と続いた。青森の前に福島のくまさか義裕候補、神奈川の岡本はじめ候補、沖縄の翁長雄志候補、東京の宇都宮けんじ候補と連なっている。

今回の「野党共闘みちのくシリーズ」の最大の特徴は、日本共産党の柔軟な姿勢とそれを受け入れる他の政党の寛容な姿勢である。この両者の寛容な姿勢が続く限りは、安倍政権のメルトダウンの始まりは、始まりだけに終わらず、安倍政権の終焉へと連なる可能性が大と私も考える。